

コロナ禍で 異例の全国大会中止 無観客県大会

全国(中国、島根)高校演劇協議会顧問

劇研「空」代表、日本劇作家協会会員

洲 浜 昌 三

昨年的高校演劇中国地区大会は松江で開催されました。レベルの高い劇が上演されました。その中で、三刀屋高校の創作劇「ただ、今」が最優秀賞を受賞。昨年の横田高校に続いて2年連続島根県から全国大会への出場決定でした。

今年の66回全国大会は高知市で開催が決まっていた。三刀屋高校は、満員の観客の前で三刀屋演劇の魅力が披露する予定でしたが、残念なことに、新型コロナウイルスの影響で大会は中止。無念の涙を流されたことでしょう。

全国大会への道は難関です。素晴らしい劇を上演しても、^{ふるい}篩にかけられ落とされることが多々あります。三刀屋高全国大会の晴れの舞台が You Tube による発表になったのは残念ですが、全国大会 6 回出場という輝かしい歴史は消えるものではありません。

2001 年から 20 年間の全国大会出場校を調べてみると、島根は 10 回選ばれています。三刀屋6回、出雲2、松江工業1、横田1です。それ以前は、浜田高が 2 回だけです。

ここに共通している特徴の一つは、独創的で魅力的な創作脚本の存在です。創作脚本を書く顧問や部員は少数で限られていますが、島根の高校演劇を牽引し、レベルアップしてきました。その財産を生かし、創作脚本の書き方や脚本分析について学ぶ機会があれば、財産が受け継がれ、さらに独創的で新鮮な舞台が生まれるかもしれません。脚本はとても重要です。

コロナ、コロナで主な行事は中止になり、どこも大きな打撃を受けています。観客があって成り立つ演劇などは存在を否定されかねない打撃です。今回の県大会は中止かと思っていた。しかし皆さんの熱意と創意工夫で無観客上演が実現しました。敬意を表したいと思います。何もしないと、楽になり、それに慣れ、やがて、それが日常化していきます。

個人的なことですが、ぼくの場合も今年は多くの行事が中止になりました。しまね文芸フェスタ、日本詩人クラブ大会、表彰式、中四国詩人会理事会、総会、詩人賞選考会、県詩人連合理事会、総会、11回「朗読を楽しむ」公演、講習会等々。東京や高知、岡山、松江へ行かず、書面で諾・否をチェックするだけ。準備も金も不要、時間もかからず「楽」でしたが、このまま続けば、楽でいいなど、ふと思ひ、恐ろしくなりました。

コラボレーションの重要性 — このようなコロナ禍で表現活動を続けようとするとき、ますます不可欠だ思うようになりました。ある民話を20分の朗読劇にして撮影することになったのですが、朗読する人の顔ばかり写してもつまらない。スクリーンに絵を投影し、その絵を中心に朗読を進めたい。となれば、絵を描く人、作曲する人、演奏してくれる人、更にセンスのあるカ

メラマン、映像編集者も・・・しかし、簡単には見つかりません。

今回の11校の劇は、他校の部員は観劇できないので、後日、DVDで観劇することになるの
でしょう。僕は今まで同様に客席で青春舞台を楽しみます。

「肩の力を抜いて伸び伸びと！おお！」。ぼくが演劇部顧問だったとき、部員たちが開幕直
前の舞台上で円陣を組んで唱和した言葉です。ぼくが送る、皆さんへのエールです。

(パンフレットの文を部分的に若干変更している箇所があります)